



# 甲虫 ニュース

# COLEOPTERISTS' NEWS

Nos. 19, 20 (Jun. 1974)

## ハネカクシ漫歩(3)

### 洞窟のハネカクシ(2)

渡辺泰明

日本の洞窟から発見されたハネカクシ類については、すでに本誌4号(1968, pp.4~5)において概説したが、その後今日までのあいだに、さらに新種を含んだ数種のハネカクシ類が記載報告されているのでここに紹介することとする。

日本の洞窟から採集されたハネカクシ類の中で、洞窟種としての形態的特徴をきわめてよく表わしているのは、クラサワツヤムネハネカクシ種群であることは前報で指摘したが、この種群に含まれるものがそれ以後四国および九州の鍾乳洞から新たに4種記載されたのははじめ、既記載種も模式産地の洞窟以外からも発見されている。それらを示せば下記のとおりである。なお、種名の前に\*印を付した種は新種として記載されたものである。

**\*Quedius**

(*Microsaurus*) *kiuchii* Y. WATANABE et M. YOSHIDA

リュウノツヤムネハネカクシ (徳島県阿南市竜ノ窟鍾乳洞)。

\* *Q.(M.) kawasawai* S. UÉNO et Y. WATANABE  
トサヤマツヤムネハネカクシ (高知県土佐郡土佐山村菖蒲洞鍾乳洞)。

\* *Q.(M.) higonis* S. UÉNO et Y. WATANABE  
ヒゴツヤムネハネカクシ (熊本県上益城郡御船町風神洞鍾乳洞, 同県球摩郡五木村九折瀬洞鍾乳洞)。

\* *Q.(M.) iriei* S. UÉNO et Y. WATANABE  
クマツヤムネハネカクシ (熊本県球摩郡球摩村高沢

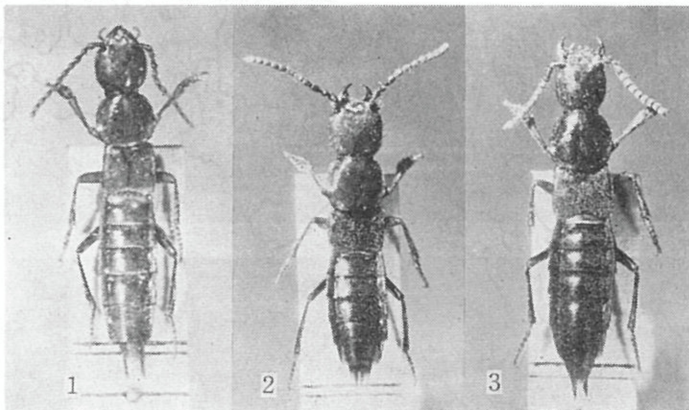
洞鍾乳洞, 同県八代郡泉村矢山岳ノ縦穴)。

*Q.(M.) cephalotes* S. UÉNO et Y. WATANABE

ラカンツヤムネハネカクシ (高知県高岡郡佐川町熊穴鍾乳洞)。

*Q.(M.) troglodytes* S. UÉNO et Y. WATANABE

カンナツヤムネハネカクシ (群馬県神流川流域橋ノ沢洞鍾乳洞)。



第1図 洞窟から採集されたツヤムネハネカクシ類。

1. キウラツヤムネハネカクシ 2. リュウノイワヤツヤムネハネカクシ 3. カンナツヤムネハネカクシ

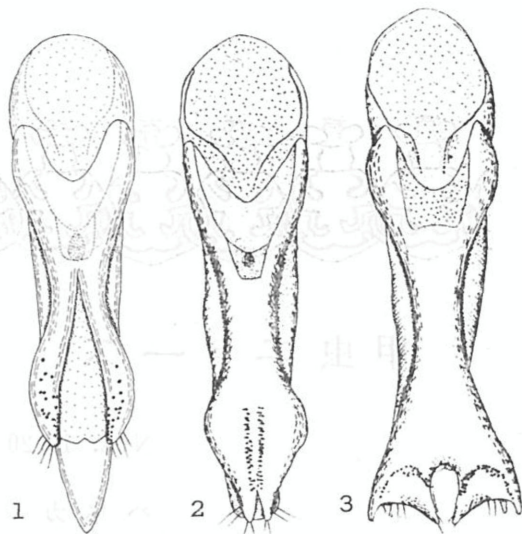
*Q.(M.) cf. sugai* S. UÉNO et Y. WATANABE  
フジツヤムネハネカクシ (山梨県第二蝙蝠穴熔岩洞)。

上記のごとく新たに記載された4種をあわせると、洞窟から発見されたクラサワツヤムネハネカクシ類

は9種を数え、日本の洞窟から発見された好洞窟性ハネカクシ類の大部分がこの種群によって占められている。

次にこれらの種が採集された洞窟の位置をプロットすれば第3図の通りで、関東地方、四国、九州の3つの地域よりそれぞれ3種ずつが採集され、日本の南西部から比較的多くの種が発見されていることになる。しかし裏日本の洞窟や、多くの洞窟が知られ、なおかつ比較的調査の行きとどいた秋吉地域からは、まだ採集例がなく今後の調査に関心が集まっている。

この種群は体型および色彩がきわめて類似し、各種の識別はおもに雄交尾器によっていることは前報で述べ、東京および山梨の洞窟から発見された2種の雄交尾器が他種のそれとはかなり異なり、雄交尾器の形状からこれらを2群に分けられることも指摘しておいた。しかし、その後発見された種をも加えて検討してみたところ、雄交尾器側葉の形状から3つのグループに分けられるようである(第2図参照)。すなわち、九州南西部の鍾乳洞から発見されたクマツヤムネハネカクシおよびヒゴツヤムネハネカクシ



第2図 クラサワツヤムネハネカクシ種群の♂交尾器(腹面)。  
1. ヒゴツヤムネハネカクシ 2. カンナツヤムネハネカクシ 3. クラサワツヤムネハネカクシ



第3図 クラサワツヤムネハネカクシ種群の分布。

1. カンナツヤムネハネカクシ 2. クラサワツヤムネハネカクシ 3. フジツヤムネハネカクシ 4. リュウノツヤムネハネカクシ 5. トサヤマツヤムネハネカクシ 6. ラカンツヤムネハネカクシ 7. キウラツヤムネハネカクシ 8. ヒゴツヤムネハネカクシ 9. クマツヤムネハネカクシ

の雄交尾器側葉は大半が癒合せず、少なくとも全長の $\frac{1}{2}$ 以上はたがいに独立し、それぞれが分けられているのに対し、九州中部の鉾山廃坑から発見されたキウラツヤムネハネカクシ、四国の鍾乳洞から発見されたラカンツヤムネハネカクシ、リュウノツヤムネハネカクシ、トサヤマツヤムネハネカクシ、それに群馬県の鍾乳洞で発見されたカンナツヤムネハネカクシなど5種の雄交尾器側葉はほぼ完全に癒合し、末端のみがわずかに分離しているに過ぎない。また東京の倉沢鍾乳洞から発見されたクラサワツヤムネハネカクシおよび山梨県西湖蝙蝠穴熔岩洞から発見されたフジツヤムネハネカクシでは、融合した側葉が末端近くで強く拡大し、中葉より明らかに長くなっている。しかし、このようなグループ分けは調査が不十分な現時点での結果であって、今後の調査の進展にもならない、それぞれの中間的形狀を呈する種の発見も予想される。

上述のツヤムネハネカクシ類以外では、昨年佐渡金山の2カ所の廃坑から3種のハネカクシが発見された。そのうちの佐和田町にある廃坑からは *Lesteva plagiata* SHARP と *Quedius (Microsaurus) simulans* SHARP が採集された。前者は通常流れの際の石や落葉下に生息している種であるが、このような種が廃坑の中から採集されたことは水流とのなんらかの関連が推定される。また後者も通常は堆積した枯葉や腐敗物等の中から採集される地上性種であるので、廃坑への侵入は坑内に営巣するコウモリの排泄物との関係が想像される。また相川町にある廃坑から発見されたハネカクシは外部形態が *Lobrathium (Lobrathium) yoshidai* ADACHI にきわめてよく似ている。後者は神奈川県平塚で採集された個体に基づいて記載されたが、この個体は台風襲来時の洪水によって海岸に打上げられたものと思われ、通常は山地帯の落葉下に生息している。相川の廃坑から採集された個体は平塚産の個体に比し体がやや大型で、生息環境の影響によるためか全体が淡色を呈し、雄交尾器にも若干の差異が認められるので、新亜種として *Lobrathium (Lobrathium)*

*yoshidai sadoensis* Y. WATANABE et BABA と命名された。

以上のほかに、外来性洞窟種として *Psephidonus lesteoides* SHARP が韓国の洞窟から発見されている。本種は従来日本だけから知られていた種であったが、上野俊一博士を隊長とする日韓合同洞窟調査隊(1966)によって、忠清北道および江原道の鍾乳洞から採集されたものである。本種も、前述の *L. plagiata* と同様、通常は水流の際に生息しているので、洞窟内への侵入は水流と関連したものと考えられる。このように、従来日本だけから知られていたハネカクシが外国の洞窟の中から採集された例としては、他に *Philonthus parvus* SHARP がある。この種は SHARP が1♀に基づいて1874年に Hyogo を模式産地として記載されたもので、それ以後今日まで日本国内からの記録はなかった。しかし近年になり TOTTENHAM (1967) によって、イギリスおよびオーストラリアが分布地として報告され、さらに MOORE (1968) はオーストラリアの Victoria 州の Guano Cave, New South Wales 州の Carrai Bat Cave および同州の Church Cave の3カ所の洞窟から、幼虫とともに多数の成虫が採集されたことを報告している。*P. parvus* はもちろん地上性の種で、洞窟に適応した形態の変異は認められず、MOORE も洞窟への侵入はコウモリの排泄物と関連したものであろうと述べている。まさか本種が日本の土中から潜行してオーストラリアの洞窟に行きついたわけではないであろうが、たいへん愉快な記録である。

以上のほか、筆者の手許には各地の洞窟から採集された純然たる外来性洞窟種が数種集まっているが、それらについては今後の洞窟調査によってもたらされる資料の蓄積を待った上で改めて紹介するつもりである。

最後に洞窟から採集されたハネカクシ類に関する研究の機会を与えられ、かつ多くの助言を賜った上野俊一博士に心からお礼申し上げる。

(東京農大)

## 日本産 *Pidonia* 属の覚え書(2)

### 甲子山の *Pidonia* 属

窪 木 幹 夫

飯豊・吾妻山塊以北の東北地方から、現在筆者の知る限りでは、10種の *Pidonia* が記録されているがこれは中部・関東地方に比べて明らかに少ない。それは福島県南部及び新潟県中部の山塊を分布の北限とする種があるためと思われる。そこで今回はこの地域の中で最も東部に位置する甲子峠の *Pidonia* について調査を行い、分布の北限の種とともに1968年本地域産の標本に基づいて記載された *Pidonia nagayamai* HAYASHI の確認を目的とした。

甲子山は那須山塊の北部の福島県西白河郡と南会津郡の郡境にあり、この付近一帯は那須火山帯に属し、安山岩から成っている。山頂部は主に丈の低い潤葉樹とクマザサに覆われ、コメツガのような針葉樹林が発達し、山麓一帯は丈の高いブナ、ミズナラ、ダケカンパに覆われている。

調査年月日：1973年7月24日～25日。

調査コース：剣柱(800m)→甲子温泉(900m)→猿ヶ鼻(1100m)→甲子峠(1387m)→甲子山(1549m)→

坊主沼(1610m).

1. *P. testacea* (MATSUSHITA) ニセフタオビノミハナカミキリ 34♂♂, 10♀♀. (1350~1600m).

2. *P. obscurior* PIC シラネヒメハナカミキリ 27♂♂, 5♀♀. (1300~1600m).

*obscurior* は日光地方の個体をタイプとして記載された原亜種と白山, 北アルプス, 苗場山付近に分布する *hakusana* の二亜種からなる。両者の斑紋は中間地点ではほぼ連続的な変異が見られるが, 綿密な調査によれば峠を境として, 明らかな差のある場合もある。今回採集された標本は, ♂の翅鞘の会合線に沿う斑紋が基部で平行, もしくは広がっていること, また♀の黒化が著しいことなどから本亜種と同定した。

3. *P. matsushitai* OHBAYASHI ヘリモンヒメハナカミキリ 1♂, 1♀. (1350~1450m).

4. *P. grallatrix* (BATES) オオヒメハナカミキリ 18♂♂, 9♀♀. (870~1400m).

5. *P. maculithorax* PIC カクムネヒメハナカミキリ 6♂♂, 3♀♀. (1300~1500m).

6. *P. insuturata* PIC ヨコモヒメハナカミキリ 9♂♂, 8♀♀. (1300~1600m).

7. *P. miwai* (MATSUSHITA) ミワヒメハナカミキリ 1♂. (1500m).

本種は北海道を除く全地域に分布するが本州では日本海側を中心に分布する。北関東(未発表), 東

北地方(十和田・吾妻山), 近畿地方(氷ノ山・音水)の個体と比較したが形態的な差異はなかった。またその垂直分布が比較的高かったことは興味深い。

8. *P. oyamae* (OYAMA) オヤマヒメハナカミキリ 12♂♂, 6♀♀. (1300~1600m).

♀は体の下面が全体的に赤褐色で, 頭部, 胸部, 小楯板が黒褐色で, 上翅の二対の黄白紋が弓状に結合している *ab. pseudocolata* であった。

9. *P. debilis* (KRAATZ) チャイロヒメハナカミキリ 6♂♂, 11♀♀. (850~1500m).

上記のうち *testacea*, *obscurior*, *matsushitai*, *insuturata* と *oyamae* は日光・那須山塊を分布の北限とする種と思われる。しかしながら, 草間(1966)は十和田から *matsushitai* と *insuturata* の分布を報告しているが, 筆者は未確認である。今回の主要な調査目的の一つであった *nagayamai* の分布は確認されなかった。本種は, 西日本に広く分布する *P. yamato* HAYASHI et MIZUNO に近い種であるといわれるが(林, 1968), 今回の調査では, これらと近縁の *obscurior* が採集された。

*nagayamai* の記載には, 甲子峠の北にある大白森山の標本が主に使用されているので, この一帯の調査をしなければならぬ。なお採集された総個体数は167頭, ♂は67%, ♀は33%であった。最大の独占種は全体の26%を占めた *testacea* であった。

(東京農大)

### ○ハナムグリは雨を予知するか

昨年(1973)6月1日に石垣島川平で観察したイシガキハナムグリ *Protaetia ishigakia* FAIRMAIRE の奇妙な行動について記してみたい。

当日私が川平に着いたのは午前9時半頃であったが, 朝のうちは日射しが強かった天気が, 次第に雲を増し, 10時頃には晴れたり曇ったりの天候になっていた。しかし, 気温は高く, 雲が切れると灼けるような太陽が容赦なく照りつけていた。川平公園の手前から左に入る道路は乾き切っていて, いろいろな蜂が飛び交ってはいるが, 甲虫は少なく, またイシガキハナムグリが蜂のように飛来するだけだった。右手にあるかなり広い伐採跡に入ってみたら, 細い木の幹にイシガキハナムグリが1頭へばりついている。注意してみると, 近くにある切株から生じた彦生えの葉にも2頭がへばりついている。これは面白いと, あたりの彦生えを廻ってみると, 面白いようにイシガキハナムグリがへばりついている。しかも, 後から後から飛んで来てへばりつくらしく, 一順して先の彦生えの所にもどって来るとまたへばりついている。中には目の前に飛んで来てへばりつくものさえある。こうして, ここでかなりの数のイシガキハナムグリを採集したが, そのうちに飽きて, その

行動の観察に切り換えた。どこからともなく飛来するイシガキハナムグリは, 飛び廻っているうちに目的の彦生えに近づき, 無雑作にその茎にしがみつき, そのまま動かなくなってしまふ。しがみつくと高さは, 彦生えの高さによっても異なるが, 大体において地上50cm以上の場所に多く, 地表近くには絶対に止まらない。これは灼けた地表からの輻射熱を避けるために当然であろう。ここに, 小一時間もいたであろうか, この間に天候はすっかり怪しくなり, 一面雲が拡がり, 11時半頃から小雨が降りだした。仕方なく, 公園前の茶店まで引返し, 雨の止むのを待ったが, 1時頃まで雨が続いた。1時半頃雨の止むのを待ってまた伐採跡まで出向いてみたが, イシガキハナムグリはまだそのまま数頭が雨にぬれた彦生えにへばりついていた。

イシガキハナムグリのこの奇妙な行動は, 気温の急激な下降は, 私が感じた限り全くなかったもので, 気温の昇降のせいとは考えられない。また, 日照がかなり強かった時から既にへばりつきが始っていたので, 日照の有無とも関係があるとは考えられない。従って, 考えられるのは, 空中の湿度の高低だけである。イシガキハナムグリはなんらかの方法で空中の湿度の急激な増加を感じ, 雨の近いのを予知して彦生えに止りだしたのではなからうか。

ここで思い出すのは、今から約30年前、1942年6月、山形県尾花沢市でのことである。当時の陸軍尾花沢演習場で教練中、地面にはいつくぼっていた私の目の前に一頭のアナムグリ *Cetonia pilifera* MOTSCHULSKY が飛来し、地面に下降すると直ちに落葉や枯草でやわらかい地中に潜り込んでしまった。やはり午前中であったが、天候は高曇りで、遠くに鳥海山がよく見えた。しかし、この日も天候は下り坂で、正午頃から雨になってしまった。従って、このアナムグリの行動も、雨を予知した上でこれを避けるための行動と考えるべきであろう。

以上2件は、日本の北と南で、種類も異っているが、共に昼間活動性のアナムグリ類に見られる行動であるので、アナムグリ類には雨を予知するなんらかの機能があるものと思われる。もち論、他の甲虫にも同じ様な機能があると思われるが、似た例を御存知の方はお知らせ願いたい。

(国立科学博物館、黒沢良彦)

#### ○越後の天牛覚え書(1)

従来、佐渡島から知られている天牛は108種であるが、同島特産と思われるものは、種としては全然なく、僅かにカタキハナカミキリの1型、f. *sadoensis* MATSUSHITA およびコブヤハズカミキリの亜種、ssp. *insularis* HAYASHI の2つが知られているにすぎない。以下に記録するクビアカルリヒラタカミキリ *Phymatodes testaceus* L. var. *variabilis* L. も新潟県の本土側では各地から知られているが、佐渡島からは初めて記録されるものである。御自身採集の貴重な標本を恵与された桑野博氏に謝意を表す。

1♀, 河原田・佐渡, 11. vi. 1972.

(新潟県新発田市, 小池 寛)

#### ○越後の天牛覚え書(2)

新潟県園芸試験場の桜井精氏に同定を求められた若干の天牛の中に、新潟県未記録の2種を発見したので報告し、備忘としたい。標本は何れも氏の御好意によって筆者が保管することとなったのであわせて同氏に謝意を表す。

1. *Olenecamptus cretaceus* BATES オオシロカミキリ

2♂♂, 糸魚川市平岩, 4. viii. 1970.

2. *Jezohammus nubilus* MATSUSHITA エゾナガヒゲカミキリ

1♂, 糸魚川市平岩, 4. viii. 1970.

両種とも旅館の灯火に飛来した由である。

(新潟県新発田市, 小池 寛)

#### ○大台ヶ原山のゴミムシ

大杉谷、大台ヶ原山(奈良県～三重県)の歩行虫に関しては、石田裕氏が詳しく報告しておられる(あきつ, 1958)。筆者は、1973年8月に同地を訪れ若干のゴミムシを採集した。それらの採集品の中に前記の文献に記録されていないゴミムシを見出すことができたので、ここに報告する。

1. *Trichotichnus lewisi* SCHAUBERGER

オオクロツヤゴモクムシ

2♀♀, 大台ヶ原, 山ノ家付近, 26. viii. 1973.

なお本種は、本州と九州の山地に産するが、特に珍しい種類でもなく、同地で採れても不思議でない。

2. *Bembidion sanatum* (BATES)

ミヤマミズギワゴミムシ

1♀, 大台ヶ原, 山ノ家付近, 26. viii. 1973.

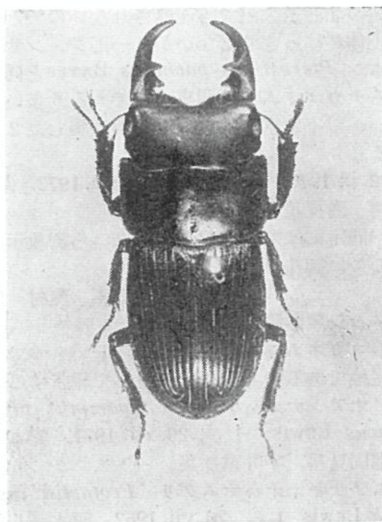
末筆ながら御教示頂いた石田裕氏、及び同定を御願した上野俊一博士に深く感謝する。

(東京都港区, 森田誠司)

#### ○イシガキネブトクワガタの記録

イシガキネブトクワガタ *Aegus laevis* ishigakiensis NOMURA は最初、石垣島より雌に基づいて記載され、その後西表島からも多数採集されているようである。しかし、今だに記録がなされていないようなので、一応ここに記録をしておく。また雄については図示されたことがないので写真を見せておく。雄は台湾のタイワンネブトクワガタに一見似るようである。

1♂, 5♀♀, 西表島白浜, 10. viii. 1973, 岡島 採集。



(東京農大, 岡島秀治)

#### ○屋久島未記録のハネカクシ2種

一昨年、筆者等は屋久島のハネカクシ相を取り纏め、91種を報告したが(Y. WATANABE & Y. SHIBATA, 農学集報, 17(1): 59~72), その後平野幸彦及び酒井香両氏から恵与されたハネカクシの中に、同島から未記録の2種を見出したので報告しておく、なお貴重な標本を恵与された上記両氏に厚く御礼申上げる。

1. *Lobrathium (Lobrathium) seriatum*

(SHARP) 1♂, 安房, viii. 14. 1968, 酒井香 採集, 分布: 日本(本州, 屋久島), 台湾。

2. *Tachinus (Tachinus) diminutus* SHARP

コクロマルクビハネカクシ 1♂, 宮の浦,  
viii. 23. 1969, 平野幸彦採集, 分布: 日本  
(本州, 屋久島)。

(東京都町田市, 柴田泰利)

#### ○クロモンヒラナガゴミムシを洲崎で採集

1973年6月17~18日に千葉県洲崎で、筆者等はク  
ロモンヒラナガゴミムシ *Hexagonia insignis* BA-  
TES を7頭採集したので報告する。

黒佐和義氏によれば、本種は、従来、灯火採集、  
洪水採集などにより採集されているとのこと。今回は  
すべて海岸付近のススキの葉上から採集された。  
その他にキガシラアオトキリゴミムシ, オオアオ  
ホソゴミムシ, トガリホソアトキリゴミムシ, 頭の  
黒くないタテスジホソミズギワアトキリゴミムシな  
どが共に得られた。

なお、下記の標本も所持しているので参考までに  
挙げておく。

1頭, 静岡県伊豆石室崎, 24. v. 1964, 河合 弘  
採集。

(横浜市中区, 奥村 尚, 河合 弘)

#### ○富士山周辺のジュンサイナガゴミムシの記録

原産地の北海道大沼で再記録されないで、依然  
として正体ははっきりしないが、一応ジュンサイナ  
ガゴミムシ *Pterosticus pachinus* BATES と同定さ  
れているナガゴミムシは関東地方でもそう多いもの  
ではない。以下に富士山周辺で私が採集した2例を  
報告する。

1♀, 2. ix. 1970. 須山; 1♀, 23. vii. 1972. 須山。  
共に奥村 尚採集。

なお、同定には須賀邦耀氏にいろいろ御教示を仰  
いだ。ここに御礼申し上げます。

(横浜市中区, 奥村 尚)

#### ○コガネムシ類数種の新産地

下記のコガネムシ類は九州では珍しいもので、何  
れも新産地であるので分布資料として報告する。

1. アオアシナガハナムグリ *Gnorimus viridi-  
opacus* LEWIS 1♂, 29. vii. 1971, 熊本県八  
代郡国見岳, 宇井章採集。
2. ムラサキオオハナムグリ *Protaetia inspe-  
rata* LEWIS 1♂, 26. vii. 1962, 熊本県八代郡  
泉村久連子, 荒牧英紀採集。
3. ツヤケシビロウドコガネ *Serica planifrons*  
NOMURA 1♂, 10. iv. 1971, 熊本県八代郡泉村久  
連子, 大塚勲・吉崎一章採集; 1♀, 12. vii. 1970,  
熊本県八代郡泉村久連子, 直海俊一郎採集。
4. ツヤシビロウドコガネ *Serica nitidiceps*  
NOMURA  
1♂, 28. vii. 1970, 熊本県八代郡泉村久連子,  
吉崎一章採集; 1♂, 29. vii. 1970, 熊本県八代郡泉  
村久連子, 吉崎一章採集。
5. コヒゲシマビロウドコガネ *Gastroserica*  
*brevicornis* LEWIS 1頭, 10. iv. 1971, 熊本  
県八代郡泉村久連子, 大塚勲・吉崎一章採集;  
1頭, 11. viii. 1971, 熊本県八代郡泉村岩宇土

山, 大塚勲採集; 1頭, 28. vii. 1970, 熊本県八  
代郡泉村久連子, 吉崎一章採集。

なお1971年4月10日採集のものは全て民家の灯火  
に飛来し死んでいたものである。

最後に標本の同定をお願いした三宅義一氏、採集  
品の記録を報告することを許された荒牧英紀・吉崎  
一章・直海俊一郎・宇井章の四氏に厚くお礼申しあ  
げる。(熊本市, 大塚 勲)

#### ○オトシブミの越冬2題

オトシブミ類の生態については、岩田、河野らに  
よる詳しい報告があるがそれらの越冬の様子につい  
ては、ほとんど知られていない。私は、冬期採集の  
際、幸運にも、次の2種のオトシブミの越冬を観察  
することができたので記録しておく。

ヒメクロオトシブミ *Apoderus erythrogaster*  
VOLLENHOVEN

1♂, 1♀, 埼玉県所沢市, 10. iii. 1972.

♀: 雑木林中に散在するアカマツ幹部の(直径約  
20cm)地上約40cmの高さの東向きの樹皮下のす  
きまに入っていた。

♂: 前個体と同じくアカマツ樹皮部にかくれてい  
たが、この個体は皮をはがすと同時にころげ落ちて  
きた。ただし、この時はがした皮は、材部に密着し  
ており、樹皮下ではなく表面の皺の間に入っていた  
ものと思われる。直径30cm程の幹の北西面、地上  
約1mの高さであった。なお、両個体共、越冬場所  
はかなり乾燥しており、ヤニサシガメ、マツカレハ  
幼虫なども同時に越冬していた。越冬中の個体は、  
頭部と胸部の間で体をくの字型に曲げていたが、温  
かいところへ出すとすぐに動き出した。

ウスモンオトシブミ *Apoderus balteatus* ROE-  
LOFS 神奈川県小倉山, 22. ii. 1972.

小倉山登山道脇のエノキの北西向きの根元の落葉  
中から同行の岡島秀治氏が見つけたものである。発  
見直後は、各脚全体にびったり密着させ少しも動か  
ななかったが、日向に出すと、すぐに動きだした。こ  
の個体も前のヒメクロオトシブミと同様、頭と胸部  
の間で体をくの字型に曲げていた。

なお、採集等の際大変御世話になった農大昆虫学  
研究室の岡島秀治氏に厚く御礼申し上げます。

(豊島園昆虫館, 黒田敏明)

#### ○日本新記録のシデムシ

アカモンオオモブトシデムシ *Diamesus oscu-  
lans* VIGORS はインドからオーストラリアに至る熱  
帯に広く分布する種類で、台湾からも記録がある。

しかし、日本領からは全く記録がなかったが、昨  
年(1973)石垣島で秋山黄洋氏により下記の標本が採  
集された。

1♀, 石垣島バンナ岳頂上, 22. v. 1973, 秋山黄  
洋採集。

バンナ岳頂上にあるテレビ中継所の水銀灯に飛来  
したものである。

オオモブトシデムシに似た体で翅鞘にモンシデ  
ムシ類に似た4個の暗赤色紋がある。体長は35mm



内外, 長さの点ではクロシデムシよりも長い。

シデムシ科は一般に北半球の温帯から寒帯にかけて多くの種類があるが, *Diamesus* 属は例外で東洋熱帯に広く分布し, 本種の他に台湾特産のフタモンオオモモトシデムシ(別名ホンモモトシデムシ) *D. bimaculatus* PORTÉVIN があるだけである。

とあれ, 日本のファウナにこの様な大型種を加えることが出来たことを慶びたい。

(国立科学博物館, 黒沢良彦)

○室蘭市および近郊で採集されたハネカクシ類  
(ハネカクシ分布資料 1)

日本のハネカクシ相の解明のためには断片的ではあっても分布資料の蓄積が望まれる。そこで筆者等は分布状態把握の一助として, 室蘭市内および周辺地域から採集されたハネカクシ類の中から, 種名の確定したものについて記録することにした。なお本報告にはヒゲトハネカクシ亜科が含まれていないことをおことわりしておく。また採集地名の石, 香, 舟, 知, 測, 室はそれぞれ石川町, 香川町, 舟見町, 知利別川, 測量山, 室蘭岳の略であり, 採集者はすべて宮森健一である。さらに北海道新記録種には種名の前に \*印を付した。

1. *Nodynus leucofasciatus* LEWIS  
シラオビシデムシシモドキ  
8 exs. 知., v. 12. 1968.
2. \**Siagonium gracile* FAUVEL  
ホソヒラタハネカクシ  
1 ex. 香., ix. 29. 1971.
3. \**Derops longicornis* SHARP  
12 exs. 測., viii. 8, ix. 8, x. 3. 1971; 1 ex. 室., viii. 18. 1971.
4. \**Proteinus crassicornis* SHARP  
チビハバピロハネカクシ  
2 exs. 舟., xi. 3. 1971.
5. \**Megarathrus heteropus* K. SAWADA  
2 exs. 知., iv. 13. 1969.
6. *Brathinus oculatus* LEWIS  
ヒョウタンハネカクシ  
28 exs. 測., ix. 8, x. 3. 1971; 4 exs. 室., viii. 19. 20. 1971.
7. \**Lesteva plagiata* SHARP  
ネアカヨツメハネカクシ  
2 exs. 舟., x. 7. 1971.
8. *Elonium impressum* (SHARP)  
セミゾキノカワハネカクシ  
1 ex. 知., v. 12. 1968; 1 ex. 石., viii. 13. 1969.
9. \**Platystethus operosus* SHARP  
クロヒメカワベハネカクシ  
1 ex. 舟., vi. 8. 1968; 2 exs. 室., ix. 6. 1971.
10. \**Osorius angustulus* SHARP  
フトツツハネカクシ  
1 ex. 香., ix. 29. 1971.
11. *Oxyporus parvus* SHARP  
オオズオオキバハネカクシ  
3 exs. 測., vii. 17. 1968.
12. *Oxyporus niger* SHARP  
クロオオキバハネカクシ  
3 exs. 石., vii. 17. 1968.
13. *Stenus (Stenus) alienus* SHARP  
ホソフタホシメダカハネカクシ  
3 exs. 石., vi. 7. 25. 1968, vii. 13. 1969;  
20 exs. 測., viii. 7. 1971.
14. *Stenus (Stenus) tenuipes* SHARP  
フタホシメダカハネカクシ  
7 exs. 石., vii. 13. 1969, vii. 31. 1971.
15. \**Stenus (Stenus) kobense* CAMERON  
8 exs. 石., vi. 7, x. 2. 1968, vii. 13. 1969;  
1 ex. 香., ix. 23. 1971.
16. \**Stenus (Hypostenus) rufescens* SHARP  
トビイロメダカハネカクシ  
1 ex. 室., viii. 19. 1971.
17. *Paederus fuscipes* CURTIS  
アオバアリガタハネカクシ  
3 exs. 石., vii. 13. 1969, vii. 31. 1971; 1 ex. 香., ix. 23. 1971.
18. *Paederus parallelus* WEISE  
エゾアリガタハネカクシ  
1 ex. 石., vii. 17. 1968; 2 exs. 室., viii. 7. 1971; 1 ex. 室., ix. 6. 1971.
19. \**Astenus suffusus* SHARP  
オオシリグロハネカクシ  
2 exs. 室., ix. 6. 1971.
20. \**Stilicoderus japonicus* Y. SHIBATA  
1 ex. 石., x. 4. 1971.
21. *Stilicoderus signatus* SHARP  
オオクビボソハネカクシ  
8 exs. 測., ix. 8. 1971; 4 exs. 室., viii. 19. 20. 1971.
22. \**Domene curtipennis* SHARP  
コマルズハネカクシ  
1 ex. 石., vii. 31. 1971; 5 exs. 測., viii. 7. ix. 8, x. 3. 1971; 1 ex. 室., viii. 18. 1971.
23. \**Domene crassicornis* (SHARP)

- オオマルズハネカクシ  
1 ex. 測., viii. 7. 1971.
24. \**Ochtheophilum japonicum* (SHARP)  
ヤマトナガエハネカクシ  
4 exs. 石., ix. 8. 1971.
25. *Nudobius apicipennis* SHARP  
ツマキツヤナガハネカクシ  
1 ex. 香., ix. 23. 1971.
26. \**Megalinus pauper* (SHARP)  
ウスイロホソナガハネカクシ  
1 ex. 石., vii. 31. 1971.
27. *Othiellus rufipennis* (SHARP)  
アカバホソハネカクシ  
2 exs. 室., viii. 4・20. 1971.
28. *Philonthus (Philonthus) cyanipennis* FAB.  
ルリコガシラハネカクシ  
1 ex. 測., x. 3. 1971; 2 exs. 室., viii. 7・18. 1971.
29. *Philonthus (Philonthus) japonicus* SHARP  
クロコガシラハネカクシ  
1 ex. 舟., vi. 1. 1968.
30. *Philonthus (Bisnius) rutiliventris* SHARP  
ムネスジコガシラハネカクシ  
1 ex. 石., vii. 13. 1969.
31. \**Philonthus (Bisnius) gastralis* SHARP  
2 exs. 石., vi. 7. 1968, ix. 8. 1971.
32. *Philonthus (Rabigus) brunnicollis* HOCHH.  
ホソチャバネコガシラハネカクシ  
2 exs. 室., viii. 7, ix. 6. 1971.
33. \**Cafius (Cafius) nudus* (SHARP)  
3 exs. 舟., vi. 1. 1968.
34. \**Hesperus tiro* SHARP  
ツマグロアカバハネカクシ  
5 exs. 測., ix. 8, x. 3. 1971.
35. \**Heterothops cognatus* SHARP  
チビツヤムネハネカクシ  
2 ex. 石., vii. 13. 1969, vii. 31. 1971; 1 ex. 香., ix. 29. 1971.
36. \**Quedius (Microsaurus) simulans* SHARP  
1 ex. 測., viii. 7. 1971.
37. \**Quedius (Microsaurus) adastus* SHARP  
チャイロツヤムネハネカクシ  
3 exs. 舟., x. 7, xi. 3. 1971; 2 exs. 測., viii. 7. 1971.
38. \**Bryoporus gracilis* (SHARP)  
アカイクビハネカクシ  
1 ex. 室., viii. 19. 1971.
39. *Lordithon striatus* (OL.)  
2 exs. 測., x. 3. 1971.
40. \**Lordithon semirufus* (SHARP)  
クロモンキノコハネカクシ  
3 exs. 室., viii. 18・19. 1971.
41. \**Sepedophilus tibialis* (SHARP)  
ヒメキノコハネカクシ  
22 exs. 室., viii. 19. 1971.
42. *Sepedophilus fimbriatus* (SHARP)  
オオヒメキノコハネカクシ  
1 ex. 室., vii. 19. 1971.
43. \**Sepedophilus germanus* (SHARP)  
ムクゲヒメキノコハネカクシ  
1 ex. 石., ix. 8. 1971; 3 exs. 測., viii. 7, ix. 8. 1971; 3 exs. 室., ix. 6. 1971.
44. \**Tachyporus celatus* SHARP  
クロズシリホソハネカクシ  
2 exs. 石., x. 2. 1968; ix. 8. 1971; 2 exs. 香., ix. 24. 1971.
45. \**Tachinus mimulus* SHARP  
キベリマルクビハネカクシ  
11 exs. 石., x. 2・4. 1968; 2 exs. 測., x. 3. 1971.
46. \**Tachinus sharpi* BERNH. et SCHUB.  
アカバマルクビハネカクシ  
1 ex. 知., v. 12. 1968.
47. *Tachinus impunctatus* SHARP  
ムネアカマルクビハネカクシ  
4 exs. 測., ix. 8. 1971; 6 exs. 室., viii. 19・20. 1971.  
(東京農大, 渡辺泰明; 室蘭市, 宮森健一)

#### 甲虫談話会

会費(1カ年)1000円, 次号は9月末発行予定,  
投稿メ切7月30日。

発行人 黒沢良彦  
発行所 甲虫談話会 東京都台東区上野公園  
国立科学博物館動物研究部内  
電(364)2311, 振替 東京 60664

#### タツミの昆虫採集器具

ドイツ型標本箱 木製大 ¥4,500, 桐合板  
製インロー型標本箱中 ¥1,400, 送料一箱につき  
都内及び第一地帯: 3箇以下 ¥750, 4個以上 ¥650  
(以下同様), 第2地帯 ¥850, ¥650, 第3地帯  
¥950, ¥750. 其他, 各種器具, 針などを製作販  
売しています。カタログを御請求下さい。

#### タツミ製作所

〒113 東京都文京区湯島 2-21-25  
電話 (03) 811-4547

#### 昆虫の器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめてできた有頭昆虫針!!

1, 2, 3, 4, 5号(各号 100本 160円)

なお, 無頭針00号もできました。その他, 採集・  
標本整理用各種器具も取揃えてあります。

〒150 東京都渋谷区渋谷1丁目7-6  
電話 (03) 409-6401 (ムシは一ばん)  
振替 東京 21129

#### 志賀昆虫普及社